

郷ノ浦港

長崎県土木部港湾課

〒 850-8570 長崎市江戸町 2-13

☎ 095-824-1111 (代)

URL : <http://doboku.pref.nagasaki.jp/~kouwan/>



1. 概 況

＜玄海灘に浮かぶ壱岐島の表玄関＞

九州本土の北西、約25km、玄界灘に浮かぶ島“壱岐”は本県の北東に位置する。このなだらかな壱岐島の南西側に波静かな入江、郷ノ浦港がある。郷ノ浦は壱岐の最高峰、岳ノ辻（213m）のなだらかな裾野と南向きに突出した渡良半島に抱かれ、その前面に大島、長島、原島の三島を天然の防波堤としている良港である。港域は「壱岐細崎から烏帽子崎まで引いた線および陸域に囲まれた海面」であり、その水域面積は約2.9km²と広く、港域内には北側の最奥部に宇土地区、北東側の永田川河口に郷ノ浦地区、南東に鎌崎地区、西に渡良地区、さらに第1種小崎漁港、神田漁港を包含する形となっている。

古く平戸松浦藩統治の時代から本島における政治、経済、文化の中心だった町並みを背後に常に壱岐の拠点港として栄えてきた。今もその役割に変わりなく重要港湾として島内一の活気に満ちている。さらに昭和47年から博多～壱岐～対馬のフェリー航路の寄港地の一つとなっており、夏は特に博多方面より本島を訪れる多くの観光客の上陸地として賑わう。また、本港前面に浮かぶ大島、長島、原島への連絡基地としても重要な位置を占めている。

＜港内の整備と変遷＞

本港の起源はつまびらかではないが、旧松浦藩時代は大小の帆船が往来し、筑前、北朝鮮方面との取引が行われていたようである。

汽船の入港としては、明治27年佐賀深川汽船会社の若津丸が最初であり、同年県費補助にて対馬商船所属の生田丸、蓬萊丸、太陽丸等が寄港したが荒天時の欠航がはなはだしかった。

大正11年指定港湾となり、同年町制施行と同時に港湾修築事業として港内を浚渫した。昭和9年第2次の港湾修築事業を起こし、大規模な浚渫と棧橋ならびに北側物揚場に着手した。爾来、急速に本港の利用船舶は増加し、商工業者の移住も盛んになり航路も阪神方面まで伸びていったのである。戦時中一時衰退したが、戦後再び急速に復活し本島第一の主要港となり、博多、唐津、平戸、長崎間の定期航路も就航し往年の最盛期を凌駕した。昭和27年8月、県管理港湾となり、昭和30年には岸壁（-5.0m）80mが完成し、大いに本港の声価を高めた。

その後、昭和34年重要港湾の指定を受け、元居防波堤70m、

片原物揚場（-3.0m）150m、元居物揚場（-2.0m）50m、階段式物揚場（-1.0m）20m、臨港道路、岸壁（-5.0m）80m、物揚場（-3.0m）80m、八幡崎防波堤60m、片原物揚場（-3.0m）の増設等昭和47年ごろまでにフェリー埠頭を含め内港区の一応の整備を終わり、昭和47年博多～壱岐～対馬間のフェリー就航やおりからの離島ブームもあり、港は一層活気を帯びてきた。

定期航路の充実とあわせ貨物船入港も年々増え、また漁船も含め船舶の大型化等により狭い港内はますます狭くなり飽和状態になってきた。特に内港区は貨物船、漁船等が輻輳し、漁船施設の整備の遅れも目立ち、盛漁期には他県の船も加わりひしめき合っている。また貨物埠頭も河口部であるため、背後用地が不足しており、十分な荷役活動を確保できない状態となってきた。ここに将来的な港湾の発展にも対応し得る新たな港湾整備の必要性が発生し、港湾機能の分担を検討することとなった。＜港湾整備と機能分担＞

昭和48年8月、港湾審議会の答申を受け郷ノ浦港港湾計画が打ち出された。郷ノ浦地区元居の外側に漁船専用水産埠頭を、鎌崎地区にバラ荷を主とした大規模貨物埠頭を、宇土地区、渡良地区に小型漁船だまりを計画し、従来の内港区でフェリーや雑貨等を扱い、各地区に港湾機能の分離を図り、増加する船舶や貨物等に対処せんとするものである。その後、フェリーの大型化、物流拠点としての機能拡充の要請に応えるべく昭和57年3月に、計画改訂がなされた。その後、平成5年には地域振興を念頭に置いた物流機能の充実、海洋レクリエーション基地の整備、自然と親しむことのできる賑わいと潤いのある空間の創造といった多様な要請に応えるべく、計画改訂がなされ施設整備が進められている。

平成6年にはフェリー埠頭が供用を開始し、島の表玄関が一新された。平成16年3月には郷ノ浦地区に2万総トン級のクルーズ客船が接岸可能な旅客船埠頭が完成、供用開始とともに「飛鳥」が寄港し、その後もほぼ毎年のようにクルーズ客船が寄港するなど、壱岐島の観光資源を活用した観光の拠点となっている。

また、平成20年度から平成23年度にかけ、大規模地震等が発生した場合に備え、緊急物資の受入等のため拠点として、郷ノ浦地区の岸壁（-7.5m）130mの改良（耐震化）を行い、地域の防災の拠点としても重要な役割を担っている。